

令和4年度

北区学校ファミリー
事業報告書

東京都北区教育委員会

はじめに

北区教育委員会教育長 清正 浩靖

北区は、平成15年度に「北区学校ファミリー構想」を策定し、他区に先駆けて、小中連携教育を推進してきました。

その成果を踏まえ、平成20年度には「小中一貫教育基本方針」を策定し、モデル事業を経て、平成24年度から「学校ファミリーを基盤とした北区の小中一貫教育」を全校で実施しています。現在、各サブファミリーが地域と一体となった特色ある教育活動に取り組むとともに、北区小中一貫教育カリキュラムを活用し、9年間を見通した教育を行っております。

本事業報告書では、各サブファミリーにおける1年間の交流や「学校ファミリーの日」の活動状況と、「学校ファミリーを基盤とした小中一貫教育」の具体的な推進状況が記されています。今後、それぞれのサブファミリーにおいて、推進の一助として活用してほしいと願っています。

さて、令和2年3月に策定された『北区教育ビジョン2020』では、取組の方向の一つとして、「0歳からの育ち・学びを支える」を掲げ、「地域と一体となった教育の推進」、「就学前教育・保育の充実」、「将来を見据えた小中一貫教育の推進」を図るとともに、小中一貫教育の牽引役としての小中一貫校の検討や、認定こども園の設置を行うこととしています。

小中一貫教育については、令和6年4月の（仮称）都の北学園開校に向け、神谷中サブファミリー3校で、神谷中サブファミリー施設一体型小中一貫校学校経営検討委員会及びカリキュラム検討委員会における検討、行事の合同実施、カリキュラムの検討等を通して、教育内容のより一層の充実を図るなど、一つ一つ丁寧に取り組んでいます。

そして、将来的には、北区における「小中一貫教育の発信源」として、その教育的成果を、他の区立小・中学校に活用することにより、北区全体の小中一貫教育の更なる充実・発展を図ります。

今後も、北区教育委員会は、0歳から義務教育終了までの一貫した子どもの育ち・学びの系統性・連続性を踏まえた教育・保育事業をより一体的に展開してまいります。

関係者の皆さまには、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

目 次

I サブファミリー事業報告

王子桜中・王子小・東十条小・さくらだこども園	1
十条富士見中・王子第二小・王子第三小・王子第五小・十条小・ じゅうじょうなかはら幼	3
明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小	5
堀船中・堀船小・滝野川第五小	7
稲付中・梅木小・西が丘小・うめのき幼	9
赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小	11
桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小・八幡小・赤羽台西小	13
神谷中・神谷小・稲田小	15
浮間中・浮間小・西浮間小	17
田端中・滝野川第四小・田端小	19
滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小・谷端小・滝野川もみじ小・ たきさん幼	21
飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小	23

II 参考資料

北区学校ファミリー構想概要	25
---------------	----

王子桜中サブファミリー（王子桜中・王子小・東十条小・さくらだこども園）

1. 交流・連携の方向性

(1) 研究主題

「自ら問いをもち、主体的に学ぶ子どもの育成
－課題を追究する授業デザイン－」

(2) 研究仮説

各教科等の特性に応じて、①単元全体を見通した授業構想を工夫するとともに、子どもが②自ら問いを深める指導を工夫することにより、子どもたちは自ら学ぶ意欲を高め、進んで考え、表現する力をよりよく伸ばすことができるであろう。

(3) 目指す子どもの姿(王子桜中サブファミリー共通)

- 自分の問いをもち、進んで考えようとする子ども
- 学び合いを通して、問いを広げ深めようとする子ども
- 学びの過程を振り返り、新たな問いをもつ子ども

(4) 問いを大切にした授業とは

学習の過程で子どもの内に問いが生じているかどうかは、主体的な学びを実現するための原動力である。また、自分の問いを広げ深めていくためには、対話的な学びの場を工夫し充実させる必要がある。さらに、自ら学びを振り返る場を学習過程に適切に位置付けることにより、子どもに新たな問いを促し深い学びへ誘うことができる。

(5) 王子桜中サブファミリー【授業スタンダード】

I 単元全体を構想した授業設計の工夫

- ①単元全体を通して、子どもに育てたい力（身に付けさせたい力）を明確にする。
- ②単元全体の中で中心となる教師の発問を明確にする。
- ③単元を通して、子どもの問いができるだけ連続するように工夫する。
- ④時間や内容のまとまりを意識した学習評価を工夫する。

II 子どもの問いを深める指導の工夫

- ①自分なりに考える時間や友達と考えを共有する時間を確保する。
- ②子ども同士の学び合い，教え合いを取り入れた学習過程を工夫する。
- ③子どもの問いを促す教師の発問を工夫する。
- ④子どもが自分の言葉で学びを振り返る場を設定する。
- ⑤子どもの主体的な追究を促す学習課題や課題提示を工夫する。

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い・サブファミリー全体での活動

実施日	会場校	取組	主となる活動内容
4/27 (水)	王子桜中学校	ファミリー研修会	・研究方針の確認と各分科会研究
5/30 (月)	王子小学校	ファミリー研修会	・6/15 研究授業の指導案検討等
6/15 (水)	王子小学校	第1回学校ファミリーの日	・小学校における研究授業
8/30 (火)	王子桜中学校	ファミリー研修会	・9/28 研究授業の指導案検討等
9/28 (水)	王子桜中学校	第2回学校ファミリーの日	・中学校における研究授業
12/21 (水)	東十条小学校	ファミリー研修会	・1/17 研究授業の指導案検討
1/17 (火)	東十条小学校	第3回学校ファミリーの日	・小学校における研究授業

(2) その他の交流活動

○通年 登下校時のあいさつ活動 (王子小・王子桜中)

○通年 合同避難訓練 (王子小・王子桜中)

○3月 小中交流音楽行事 (王子小・王子桜中)

※例年行っていた交流活動は新型コロナウイルスの影響でほとんどが中止となった。

3. 成果と工夫した点

<成果>

○それぞれの校種の教員が幼・小・中での成長の過程を知ることで発達段階における保育・学習指導の相互理解に基づいた研究授業を実践できた。3校1園が研究主題を基に「自ら問いをもつ」児童・生徒の姿を意識した教材開発、教具の工夫、学習形態の工夫を学び合うことができた。

○「問い」を学びの土台として位置付け取り組んだことで、グループでの対話や自己内対話を通して「問い」に迫ろうとする協働的、主体的に学びに向かう児童・生徒の姿が見られた。

<工夫した点>

○王子桜中サブファミリー【授業スタンダード】を視点として、単元全体を構想した授業設計や子どもの問いを深める指導の工夫について研鑽することができた。また思考ツールや動画など、「きたコン」を効果的に活用した授業実践に取り組むことができた。

4. 課題と改善の方向性

○各分科会において活発な意見交流ができたものの、それらをファミリー全体で共有するにあたり課題が残った。時間的な制約がある中で、報告内容が断片的になってしまい、自分が所属する分科会以外の研究内容について共有財産とすることができなかった。今後は全体会の中で特定の分科会における授業実践の具体から分科会での議論内容までを取り上げて紹介し、教科を問わず「問い」に向かう授業デザインを探究していきたい。

○分科会で授業案、発問構成等を吟味したことは、どの授業においても児童・生徒の学びの深まりにつながった。各校園内においてもこのような機会をもてるとさらに良いのではないかと意見が挙がった。

十条富士見中サブファミリー（十条富士見中・王子第二小・王子第三小・王子第五小・十条小・じゅうじょうなかはら幼）

1 交流・連携の方向性

- ・北区教育ビジョン2020の理念を踏まえ、十条富士見中サブファミリーの育てたい子ども像を「自ら考える子ども」、「心豊かな思いやりのある子ども」、「健康でたくましい子ども」とし、「知」、「徳」、「体」のバランスのとれた育成を目指す。
- ・十条富士見中サブファミリーにおける特色ある取り組みのコンセプトを「ICTの活用」とし、研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現を図るための指導の工夫 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現を目指して～」とする。
- ・幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒の発達や連続性を配慮し、小中一貫カリキュラムを活用した幼・小・中一貫教育の推進をする。
- ・園児・児童・生徒の交流学习の実施や地域行事を活用した連携活動を推進する。

2 具体的な活動

(1) 調整や話合いの実施

- ・校園長連絡会（年度当初、年度末に計2回開催）
- ・運営委員会（副校長・教務主任等）
- ・養護教諭連絡会など必要に応じた教員連絡会

(2) サブファミリー全体での活動

- ・授業研究会（年間3回） 6月15日（水） 9月28日（水） 1月25日（水）
- ・つまずき0プラン検討会 9月28日（水）
- ・小学生の中学校体験入学 11月29日（火）
- ・園児の中学校訪問事業
リレー練習会 凧揚げ大会 10月 4日（火） 1月13日（金）
- ・幼稚園での中学生職場体験 7月 5日（火）～7月7日（木）
- ・図書POP作品交流事業 新中学一年情報交換会 1月 3月
- ・園児の小学校訪問事業
プール体験・運動会参加 9月 6日（火） 10月22日（土）
運動会・学習発表会リハーサル見学 10月14日（金） 11月24日（木）

(3) 「学校ファミリーの日」の授業研究会（年間3回）

8つの分科会に分かれ、ICTを活用した研究授業を実施した。

- ・第1回授業研究会 王子第二小学校

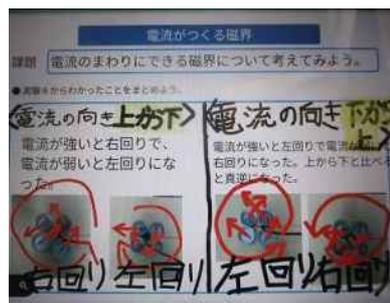
第1回の協議会では自己紹介から始め、教員間の人間関係を確立し、その後の協議が円滑に進むようにした。各分科会では、ICTの活用方法を中心に協議を進め、各教科等で活用しているアプリについて理解を深めることができた。さらに、ICTの活用をすべき場面と不向きな場面について意見交換が行われた。



ロイロノートの活用の様子

・第2回授業研究会 十条富士見中学校

第2回の協議会では、中学校でのICTの活用状況から、小学校でどのような取り組みを行うことが中一ギャップを緩和することにつながるのかを議論できた。全体会では、じゅうじょうなかはら幼稚園園長 高沢ゆみか先生による講演会「幼稚園の教育について」を実施し、幼稚園の教育活動を知ることによって、子どもの発達や円滑な接続について教員の意識が高まった。



スクールタクトの活用の様子



幼稚園の教育の様子

・第3回授業研究会 王子第三小学校

第3回の全体会では、各分科会で議論された、きたコン活用の成果と課題について、全教員で共有することができた。また、十条小学校校長 上原 史士先生による幼小中連携を踏まえた本年度の研修のまとめを実施した。



きたコンを使った授業の様子



全体会の様子

3 成果と工夫した点

今年度から新たに「ICTの活用」をコンセプトにし、きたコンを活用することで、「情報の共有」、「データの記録・管理」、「発表の工夫」、「視覚的効果」等が得られることが分かってきた。「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための指導の工夫の一つの手段として、きたコンを活用する意識が高まり、積極的に活用される様になってきた。

4 課題と改善の方向性

GIGAスクール構想を実現するため、北区では「きたコン」を導入し、まもなく2年目が終わる中で、小学校、中学校共に、「きたコン」の使用に慣れ始め、様々な場面で教員・生徒が活用できるようになってきた。授業においては「ロイロノート」、「スクールタクト」、「ジャムボード」、「デジタル教科書」等の様々なアプリを活用することで主体的・対話的で深い学びの実現を図るための指導の工夫をすることができた。

しかし、よりよい授業を行うためには、きたコンをより効率的・効果的に活用していく必要がある。それを実現するためには、研究授業実施前に事前協議を行い、多くの先生方の意見を取り入れて授業を構成する必要がある。このことから、次年度は学校ファミリーの日のみならず、指導案を協議検討する機会を設けるなど、きたコンの最適な活用を協議し、研究を深めたい。そして、研究授業だけではなく普段の授業から、きたコンの効率的かつ効果的な活用を模索し、共有化を図る必要があると考える。

明桜中サブファミリー（明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小）

1. 交流・連携の方向性

持続可能な社会づくりに向けた教育を特色として、以下の3つの柱で推進していく。

- (1) SDGsの考え方についての共通理解を図り、17の目標内容を意識した教育を推進する。
- (2) 教科学習や学校行事を通して学んだことを生かして、家庭や地域でのSDGsへとつなげていく。
- (3) 各校でのSDGsについて情報を共有しながら、取組の一層の充実を図る。
- (4) 児童・生徒の交流の場をできる範囲で設定する。

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

○5月 校長を各校の窓口とし、電話連絡にて運営委員会を行った。

- ・新型コロナの感染が収まらない中、校長同士で調整し、以下の3点について協議した。

①新組織の確認 ②役割分担 ③今年度の学校ファミリーの進め方

○8月 つまずきゼロプラン小中一貫学力向上シートの作成

- ・つまずきゼロプラン小中一貫学力向上シートを活用して、つまずきの解消を図るための具体的な方策について、共通理解を図った。

○3月 運営委員会を行う。

- ・今年度の成果と課題、次年度計画の確認を行った。

(2) サブファミリー全体での活動

○6月15日（水）、明桜中学校にて全学級授業公開、全体会及び分科会を実施し、その後、運営委員会を行った。

- ・授業内容に、「SDGs」に関連する内容を取り入れる。
- ・小・中学校教員によるティームティーチングにはこだわらない。
- ・連携の在り方は、教科等の特性に応じる。
- ・教材の共有化も視野に入れる。

○9月28日（水）、柳田小学校にて授業公開及び分科会を実施し、その後、運営委員会を行った。

- ・3つの分科会で外部講師を招へいし、見識者による授業に対する指導講評や講話は、大変有意義なものであった。
- ・対面での分科会が久しぶりだったこともあり、SDGsへの課題意識を中心にどの分科会も意義のある話し合いとなった。

○1月25日（水）、豊川小学校にて授業公開及び分科会を実施し、その後、運営委員会を行った。

- ・今回も対面で実施することができた。
- ・各分科会において、授業に関する協議や小中連携の具体的な取組等、次年度に向けた方向性等が話し合われ有意義なものであった。

○2月下旬から3月にかけて、生徒会の生徒が中心となって、各小学校6年生に向けた学校紹介を行う。オンラインによる実施はもちろん可能であるが、コロナ禍による制限が少しずつ解消される中、過去に実施してきたように、各小学校を訪問しての対面による交流も視野に入れている。

3. 成果と工夫した点

昨年度に引き続き、SDGsやESDへの取組を教育活動に位置付けていくことを共通理解し、各校での取組について情報交換ができたことが成果である。理科や社会科だけでなく、国語科や家庭科、英語科など様々な教科等や学校行事でもSDGsに関連させて学習することが可能であることを実感することができた。リサイクル活動、節電・節水、学校や地域をきれいにする活動、給食を残さず食べて残飯を減らす活動、飼育・栽培活動を通して生命の大切さを学ぶ学習、男女平等・共同参画についての学習など、SDGsを意識した取組がきっかけとなり、学校だけでなく家庭や地域社会でもできることはないかと活動の幅を広げていこうという意識が芽生えてきている。

17の目標は簡潔でわかりやすく、目標を達成するために自分たちにできる活動についても考えやすいといえる。今後も普段の授業にSDGsの視点を取り入れながら、子どもたちの意識をさらに高めていく。



4. 課題と改善の方向性

新型コロナウイルス感染症の拡大により、授業研究だけでなく、運営委員会も十分に実施できない中、オンラインによる分科会協議が中心となってしまい、十分な情報交換の場を設定することができずにいた。講師を招へいしてSDGsに関する学習会や指導助言の機会も設定することができなかった。従って今年度は以下の3点について実施していくこととした。

(1) 講師を招へいしての学習会を実施する。

分科会により、実施することができた。今後も広く実施していく。

(2) 分科会ごとに事前の指導案検討を行い、年間3回の研究授業を実施する。

フォルダを活用し、オンラインにより指導案検討を実施した。しかし、指導内容に関する活発な意見交換には至っていない。今後の課題である。

(3) 各教科等の年間学習指導計画の中で、SDGsに関連する学習がどの単元で、どのように組み込めるかを各校で検討し計画を立てることとしたが、今後も継続した課題である。

(4) 限られた時間を有効に使い、オンライン会議等の有効活用に関して、今後もファミリー内で検討し、実践していく必要がある。

堀船中サブファミリー（堀船中・滝野川第五小・堀船小）

1. 交流・連携の方向性

【年間 研究主題】

「児童・生徒のよりよい人間関係を基盤とした授業づくり」
～児童・生徒相互のかかわり合いの場を整えて～

【研修テーマ策定の背景と検討の視点（令和3年度からの継続）】

・授業に「児童・生徒相互のかかわり合いの場」を意図的に設定し、整えていく。



児童・生徒は、互いに思いや考えを受容するようになり、安心感が醸成され、思いや考えを自由に表現するようになるという仮説を立て、対話的な学びの実現及び主体的な学びの具現化のために、小・中学校の教員が情報交換し学び合うために、合同の教員研修、合同研究会を実施し、小・中学校の学習指導に対する教員間の意識の差の解消、指導法の接続を図る。

また、学力向上につながる生活習慣の啓発に向けた取組を推進する。授業に「児童・生徒相互のかかわり合いの場」を意図的に設定し、整えていく。

2. 具体的な活動

(1) 調整や話合い

4月8日（金） 15：30～ 運営委員会 堀船中学校にて

- ・今年度の研修実施方策及び計画検討
- ・今年度の研修主題を「児童・生徒のよりよい人間関係を基盤とした授業づくり」と設定し、荒川区立教育センター就学相談員 公認心理師、元 東京都学校教育相談研究会会長、元葛飾区立金町中学校校長、伊藤 康嗣 先生を年間講師とした。

(2) サブファミリー全体での活動

【第一回】

- ・令和4年6月15日（水）14：00～16：30 堀船中学校
- ・研究授業 ※ 事前の申し合わせとして体育の授業を盛り込むことにした。

[英語科] 1年2組 渡部みゆき 主任教諭、江田彩芳 教諭

[保健体育科] 2年 杉政 健 主幹教諭、池田麻美 主任教諭

[社会科] 3年1組 染井 滋行 教諭

- ・全体会

「小中連携で共通実践できる4人組の共同学習」と題して、小学校、中学校教員が4人組を形成し、ロールプレイング形式の活動を通して他者とのコミュニケーションづくりについて、研修を深めた。

【第二回】

- ・令和4年9月28日（水）13：45～16：30 滝野川第五小学校

- ・研究授業

[保健体育科] 特別支援 齋藤 美穂 主任教諭、前田愛奈 教諭

[社会科] 4年2組 本木 惇太 教諭

[国語科] 5年1組 高浦 卓 主任教諭

・全体会

「Q-Uテスト」の結果の分析や、それを活用した児童・生徒理解の方法や、学級経営について、ご講演いただいた。また、各校の結果に着目し参加教員が実際に分析する作業を行い、あらためて自校の児童・生徒の実態やそれらを踏まえた自校の課題分析を行った。

【第三回】

・令和5年1月25日（水）13:30～16:30 堀船小学校

・研究授業

[道徳科] 2年1組 大熊美由紀 主任教諭

[理科] 4年2組 甲田 一生 教諭

[体育科] 6年2組 鈴木 統大 教諭

・全体会

「コロナ禍におけるQ-Uデータ」の結果の分析について、より具体的な事例を基にご講演をいただいた。児童・生徒を取りまく様々な社会情勢の変化は、子どもの精神に多大な影響を与えており、そのためには学校全体で情報を共有し、関係諸機関と連携を図るなどワンランク上の組織対応が必要であることをファミリー全体で確認した。

3. 成果と工夫した点

(成果)

今年度は、昨年度の研修主題を継承し、研修をスタートした。年間講師の伊藤康嗣先生からはQ-Uテストを活用した学年・学級経営及び授業改善について講演をいただき、教員一人一人が、児童・生徒とのかかわり合い方、特に児童・生徒への言葉掛けなど意識するようになった。このことによって、対話的で深い学びにつながることへ発展させることができた。

(工夫した点)

学習指導案の様式を統一し、授業者と参観者とできるだけ同一の視点になれるようにした。また、各回に体育の授業を設定し、小中9年間を見据えた体力向上への取組とした。

4. 課題と改善の方向性

本研修の取組のひとつである「児童・生徒一人一人への適切な言葉掛け」については、教員が好ましい信頼関係を構築するためには必要不可欠な姿勢であり、継続的に取り組むべきことであることは言うまでもない。具体的に、どのような方法が効果的かについて、様々な取組事例を参考にしながら、研修を進める。



稲付中サブファミリー（稲付中・西が丘小・梅木小・うめのき幼）

1. 交流・連携の方向性

今年度、稲付中サブファミリーでは、「国際理解教育の推進」をねらいとし、以下の3点のことに重点を置き、小中一貫教育を進めてきた。

- ① 幼・小・中の学校教育の円滑な接続を実現させ、幼児・児童・生徒の系統的な学習と確かな学力の定着を目指す。
- ② オリンピック・パラリンピックレガシーアワード校での取組を通し、「豊かな国際感覚」の醸成をねらいとして、スポーツを愛し、平和な社会や共生社会の実現を見据えた世界に貢献できる資質・能力の育成を図る。
- ③ 幼・小・中での国際理解教育を通して、広く世界を見つめ、日本人としての自覚と誇りをもち、国際社会に主体的に貢献し、共生社会を共に生き抜いていく資質・能力を育てる。

今後、幼・小・中の教員が継続的に連携・協働を進めたり、「つまずきゼロプラン」を作成したり、健康・教育相談についての情報交換を行ったりすることにより、幼小中の教育内容の相互理解・教員の指導力の向上・小1問題・中1ギャップ等の課題の解消に努めていく。

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い（稲付中サブファミリー組織構成）

令和4年度

小中一貫教育担当校長 稲付中校長 小代表校長（西が丘小）	
運営委員会 全校長・全副校長・幼副園長・各校担当主幹（主任） （必要に応じ、SF運営アドバイザー・指導主事・教育指導員他）	
授業研究部会 各分科会チーフ	①（国語、社会）②（算数・数学、理科）③（英語、外国語活動）④（図工・美術、技術・家庭、音楽、保健体育）⑤（道徳）⑥（生活・総合） 6分科会
稲付中学校 梅木小学校	西が丘小学校 うめのき幼稚園

(2) サブファミリー全体での活動（年間計画）

実施日	会場	取組	内容
5月12日（木）	稲付中学校	運営委員会①	組織編成・年間計画、6月学校ファミリーの日計画
6月15日（水）	西が丘小学校	授業参観 運営委員会②	研究参観・協議、全体会、分科会 分科会役割分担、連携授業の準備
8月30日（火）	稲付中学校	連携授業 研究分科会	連携授業に向けての指導案検討 新型コロナウイルス感染拡大のため中止
9月28日（水）	稲付中学校	連携授業 運営委員会③	教科分科会ごとに連携授業、研究協議会、つまずきゼロプラン検討
12月19日（月）	梅木小学校 うめのき幼	連携授業 研究科会	連携授業に向けての指導案検討 日程調整ができず、データ確認

1月25日（水）	梅木小学校 うめのき幼	連携授業 運営委員会④	分科会の連携授業，研究協議会 研究のまとめ（成果と課題）
----------	----------------	----------------	---------------------------------

3. 成果と工夫した点

- (1) 今年度は、6月の授業参観、9月と1月の連携授業実施に向けて、ファミリーの一斉研修日を相談し設定した。幼・小・中の教員が6つの分科会ごとに集まり、指導案や指導方法、全員の役割分担を検討及び協議することを通して教材研究を進め、一人一人が当事者意識をもって授業研究に臨むことができた。
- (2) 今年度は、年間3回学校ファミリーの日に小・中学校の授業参観、授業研究を実施できた。授業後の6分科会では、北区小中一貫カリキュラムを基にした授業の振り返りや指導内容・方法の改善について協議したり、つまずきゼロプランを検討したりした。その結果、小・中学校での成果や課題が明確になり、授業後の協議会でも忌憚のない意見を交わすことで、小・中学校の連携が深まったとともに、授業力向上にもつながった。
- (3) 特定公開フォルダー〈稲付中SF〉は、研究授業の指導案検討や分科会運営に関する内容に留まらず、様々な情報交換の活用の幅が広がり効果的である。今後も有効活用していきたい。
- (4) オリンピック・パラリンピック教育アワード校（3校）として、ロンドンオリンピック メドレーリレー銅メダリストの加藤 ゆか選手を招へいし、小学校で講演会を9月6日（火）に実施した。今年度は実技での交流や指導もしていただき、昨年度よりも実りある実践となった。

4. 課題と改善の方向性

(1) 授業研究での課題と改善

今年度は、①（国語、社会）②（算数・数学、理科）③（英語、外国語活動）④（図工・美術、技術・家庭、音楽、保健体育）⑤（道徳）⑥（生活・総合）の6分科会で構成した。今年度から「国際理解教育の推進」をねらいとして授業研究を進めてきたが、分科会によっては、国際理解教育と関連させて研究授業をすることが難しい部分もあった。そのため協議会では、国際理解教育について活発に意見交換できないこともあった。来年度は教科等の分け方やグルーピングも含め、国際理解教育とどのように関連させて授業研究を行っていくか改善する必要がある。

(2) 研究推進についての課題と改善

令和4年度から、稲付中サブファミリー3校が「オリンピック・パラリンピック教育レガシーアワード校」として指定された。3回の学校ファミリーの日では、3校の情報交換や共通理解を図りながら、研究を進め、連携を深めていくことができた。これからも情報交換や共通理解を図りながら、充実を図っていく必要がある。

また、今年度の課題を踏まえ、研究主題と授業研究の関連を深めたり、組織の面では教科等分科会を見直したりし、より稲付サブファミリーの研究が推進しやすい方向に改善を図っていく。

赤羽岩淵中サブファミリー（赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小、 なでしこ小・第四岩淵小）

1. 交流・連携の方向性

育てたい子ども像を「学びをつなぎ生きる力を育む子ども」と設定し、以下の内容で小・中合同研修や交流活動に取り組んだ。

- ①児童・生徒の学習状況等の情報交換を十分に行い、小学校入学から中学校卒業までの一貫した指導に取り組む。
- ②授業においては各教科分科会における小中一貫カリキュラムに基づいた授業計画と実践を通して、9年間を見通した小中の連続性のある指導を行う。
- ③小中一貫としてのサブファミリーであるので、児童・生徒と保護者・地域と連携した小中合同引き取り訓練（5月6日）を実施し、引き取りの仕方や兄弟の引き取りの動き方や登下校の危険個所、被災時の待ち合わせ場所等具体的に確認する。

2. 具体的な活動

（1）調整や話し合い

- サブファミリー運営委員会（各校校長）を年5回行い、活動方針の決定や3回の学校サブファミリーの日の内容や各学校間で必要な調整の確認を行った。
- 9月28日サブファミリーの日に小中学力向上委員会として、研究協議と学習のつまづきや児童の実態を確認し、話し合うことができた。また、2月14日中3小6担当連絡会を赤羽岩淵中学校にてファミリーの生徒の状況について情報交換を行った。
- 研究分科会
国語部会、社会部会、算数・数学部会、理科部会、外国語活動・英語部会、体育・保健体育部会、音楽・図工・美術・技術・家庭部会、特別支援部会・養護部会、道徳部会の9分科会を設置し全員が分科会に所属し、各研究会の企画・運営を行った。特に、ICTの活用について話し合い、学びの連続性を確認した。また、小学生と中学生の交流も推進し、展覧会作品交流展示をすることや学校行事などでは、教員の交流も進めた。

（2）サブファミリー全体での活動

- 第1回サブファミリー 全体会、各教科等部会打ち合わせ
令和4年5月6日（金）午後3時30分赤羽岩淵中学校会場
全体の研究の進め方や各教科等部会の職員を紹介し1年間の研究・組織を確認した。
- 授業研究分科会及び研究協議会について
 - ・ 第2回サブファミリー 授業研究協議会（北区学校ファミリーの日①）
令和4年6月15日（水）午後1時45分開始 赤羽岩淵中学校会場
 - ・ 第3回サブファミリー 授業研究協議会（北区学校ファミリーの日②）
令和4年9月28日（水）午後1時45分開始
赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小で9分科会毎、各小学校会場
 - ・ 第4回サブファミリー 授業研究協議会（北区学校ファミリーの日③）
令和5年1月25日（水）午後1時45分開始

- 赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小で9分科会毎、各小学校会場
- ・第5回サブファミリー 全体会・各教科等部会まとめ発表会
令和4年5月6日（金）午後3時00分 開始 赤羽岩淵中学校会場
各分科会のまとめを発表し、1年間の研究成果を全員で共有した。

○ 防災・安全教育について

- ・小中合同引き渡し訓練実施 令和4年5月6日（金）午後1時15分開始
赤岩中サブファミリーの中学校と各小学校で同時に実施した。
- ・第1回サブファミリー連絡協議会
令和4年7月8日（金）午後3時30分 開始
第四岩淵小学校会場 赤羽警察署管内の状況や夏休みの生活や課題について
- ・第2回サブファミリー連絡協議会
令和4年12月15日（木）午後3時30分 開始
赤羽岩淵中学校会場 赤羽警察署管内の状況や冬休みの生活や課題について

3. 成果と工夫した点

- (1) 9分科会に分かれて、小・中が連携した授業研究を推進している。各教科等部会で小学校から中学校への学習の流れを意識することやつまづいている項目を抽出し、小学校教諭と中学校教諭が話し合うことで、内容を深化させることができた。
- (2) 小学校入学から中学校卒業までの一貫した流れの中で、きたコンを始めICT機器の活用が今後より重要に捉え、各教科等部会で活用状況の意見交換を行なった。生徒の活動の視点で、文字の入力から、意見交換や自身の考えやグループでの意見発表時の活用、ソフトウェアの機能を使った作品やプログラミングなど幅広い活用方法が報告され、小中一貫教育の流れを感じ取ることができた。また、ICT活用を苦手とする教員も、実践された授業と同じ手順・同じ方法で実際に授業を行うことを通して、苦手意識を軽減し、活用の気運を上げることができた。
- (3) 災害時を想定し、保護者へ児童・生徒を引き渡す訓練を小・中が連携して同時に実施し、保護者が小学生を迎えに行った後に、中学校へ来るという訓練が定着し、全く混乱なく実施できた。サブファミリーの小・中学校が同日に一斉に引き取り訓練をすることで保護者や地域の防災に対する意識は更に高まっている。
- (4) ファミリー校の展覧会作品交流展示、あいさつ運動の生徒会と児童との交流を推進。小・中学校のPTA校外委員・PTA役員と学校関係者・赤羽警察が参加してのファミリーの5校で生活連絡協議会を長期休業前（夏・冬長期休業日前）の年2回実施することにより、関係諸機関・地域・PTAと協力したファミリー間の連携行事で信頼関係がさらに深まっている。

4. 課題と改善の方向性

- (1) 年度当初に決まっていなかった生活連絡協議会の日程の設定が困難であったことから、前年度中に活動の計画をするなど、改善する必要がある。
- (2) きたコンの活用について事前検討、研究授業、研究協議会と協議することで、活用を理解できた。今後、意見交換の場をより多く設定するなど研究を推進する。

桐ヶ丘中サブファミリー（桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小 ・八幡小・赤羽台西小）

1. 交流・連携の方向性

桐ヶ丘中サブファミリーでは、北区小中一貫モデル事業の実施方策を踏まえ、はじめに、各校における小中一貫に関する考え方や実施可能な取組等について、検討した。そして、各校の実態や特色ある教育活動、課題等を学校運営部会に持ち寄り、ファミリーとしての「育てたい子ども像」を明確にすることとした。

各校からは、基本的な生活習慣の確立や心の教育の充実、基礎学力の向上や表現力・思考力の育成といった課題や目指す児童・生徒像が挙げられた。生活環境も性格も得意なことも異なる子どもたちが、9年間の学びを終えたとき、一人一人が自信を持って社会に巣立っていける子どもに育ててほしいという願いから「育てたい子ども像」を設定した。

また、桐ヶ丘中サブファミリーの小学校数や地理的な条件等を考慮し、各小学校で教科を絞り中学校との連携を図ること、生活指導や行事等を通じた連携を今後も模索していくことを確認した。

○「育てたい子ども像」…「何事にも意欲的に取り組み、自己有用感のもてる子ども」

○「知」…「教科による連携」

○「徳」…「生活指導による連携」

・生活指導上の諸課題に関する情報の共有 等

○「体」…「行事による連携」

・水泳、陸上等の中学生による模範演技、実技指導の手伝い

・桐ヶ丘郷小学校吹奏楽部と桐ヶ丘中学校吹奏楽部の合同演奏会の実施 等

2 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

令和2年度からこれまで、桐ヶ丘中サブファミリー運営委員会では、中学校は毎年、小学校4校は2校ずつ隔年で研究授業を実施するという形で授業会場を調整してきた。

また、全5校で円滑に連絡・調整をするため、公開フォルダ内に桐ヶ丘サブファミリー専用フォルダを作り、いつでも連絡や報告等の情報共有ができるようにした。

今年度はサブファミリー運営委員会で、年3回の学校ファミリーの日について話し合い、第1回は八幡小学校で全体会並びに研究授業を、第2・3回には桐ヶ丘中学校と赤羽台西小学校で研究授業を行うこととした。6つの分科会に各小中学校の教員が分散するようにしてメンバー表を作成し、基本的に年間を通して同じメンバーで研究授業を行った。各分科会の講師は主としてサブファミリー内の校長とし、一部に北区外国語教育アドバイザーを講師として協議会を実施した。

指導案検討会は、昨年度と同様全てオンラインで行った。移動がない分、教員の時間を確保することができ、働き方改革につながると考えたからである。結果として、昨年より自主的にオンライン指導案検討会に参加する教員が増えた。

(2) サブファミリー全体での活動

①特色ある取組

「明るいいいさつをしよう」、「はきものをそろえよう」、「じかんをまもろう」の3つを桐ヶ丘子ども憲章として掲げ、5校で取り組んでいる。また、あいさつ標語を毎年児童・生徒から募集し、生活指導主任がまとめて、ポスターを作成している。

②授業改善

6分科会（学力向上、英語、健全育成、体力向上、特別支援、ICT）ごとに目的と検討事項を明確にし、テーマに沿って意見交換と情報共有を行った。学力向上分科会は国語科、算数科、数学科で、英語科分科会は外国語活動・英語科で、体力向上は体育科で、健全育成分科会は道徳科で、特別支援分科会は社会科、学級活動・自立活動で、ICT分科会は図工、国語で、研究授業を行った。協議会では、授業以外に日常の取組についても情報交換することができた。各協議会の記録は桐ヶ丘サブファミリー専用フォルダに保存し、全体で共有している。

③地域との連携

不登校の情報交換には、地域の方々や子ども食堂の関係者などの情報も活用し児童・生徒理解を図っている。



3. 成果と工夫した点

①成果

研究授業や事前の指導案検討会を通し、小・中学校の教員がそれぞれの校種の立場で指導方法や授業改善に向けて話し合いを深め個々の専門性を高めることができた。

今後も一人一人の児童・生徒の課題に寄り添う指導方法の改善に向けて、研究を深めていきたい。

②工夫した点

「何事にも意欲的に取り組み、自己有用感もてる子どもの育成」を目指して、自己有用感の捉え方について、指導案検討会や協議会で話し合う場を設定した。

また、分科会としてのテーマや授業のねらいについても視点を明確にし、手立ての有効性について意見交換や情報共有を行うことができるようにした。

4. 課題と改善の方向性

オンラインでの指導案検討会の開始時刻が分科会によって不揃いだった。次年度はMeetの参加の仕方を事前に確認する。

今日的な課題としての「SDGsに関する教育」について、5校で情報交換がされていない。そこで、次年度は「SDGsに関する教育」に向けて各校で取り組み、サブファミリーとして研究を深めていく。



神谷中サブファミリー（神谷中・神谷小・稲田小）

1. 交流・連携の方向性

(1) 「交流・連携教育」から「小中一貫教育」のフラッグシップ校へ。義務教育9年間の切れ目のない一貫した指導体制と校種の特性を生かした小中一貫教育を実践する。

【学びのスタンダード構築から確立へ（仮称）北区立都の北学園の開校を前にして】

(2) 三部会（教務・生活・研究）、教科、学年の各分科会を設置して、全教員がいずれかに所属し、教育カリキュラムの検討や授業研究を行う。

(3) 義務教育9年間を見通したサブファミリー防災・減災教育や農業体験を実施し、地域防災の担い手や環境、食を意識した児童・生徒の育成をする。

(4) 小・中学校教員間の交流を活発にするとともに、互いに尊敬の念を抱くことで、教員相互の信頼関係を深める。

2. 具体的な活動

(1) 打合せや調整

- ① 4月 4日(月) 午後1時30分～4時30分(神谷中)「全体会」、「三部会」、「教科部会」、「小小合同学年会」、「小中一貫教育推進協議会」
- ② 5月13日(金) 午後2時30分～4時(神谷小)「SF会議」、「三部会」、「【教務部会・生活部会・研究部会】」、「小中一貫教育推進協議会」
- ③ 6月9日(木) 午後2時30分～4時30分(稲田小)「SF会議」、「三部会：教務部会・生活部会・研究部会」、「低・中・高学年部会」、「小中一貫教育推進協議会」
- ④ 7月29日(金) 午後2時～4時30分(神谷中)「SF会議」、「三部会：教務部会・生活部会・研究部会」、「全体会」、「小中一貫教育推進協議会」
- ⑤ 9月12日(月) 午後2時30分～4時(神谷中)「小中一貫教育推進協議会」
- ⑥ 10月14日(金) 午後2時30分～4時30分(神谷中)「三部会」、「教科部会」、「小中一貫教育推進協議会」
- ⑦ 11月14日(月) 午後2時30分～4時30分(神谷中)「三部会」、「教科部会」、「小中一貫教育推進協議会」
- ⑧ 12月19日(月) 午後2時30分～4時30分(神谷中)「三部会」、「学年部会」、「小中一貫教育推進協議会」
- ⑨ 1月17日(火) 午後2時30分～4時30分(神谷小)「三部会」、「教科部会」、「一貫教育協議」
- ⑩ 2月28日(火) 午後2時30分～4時30分(神谷中)「三部会」、「学年会」、「教科部会」、「小中一貫教育推進協議会」
- ⑪ 3月7日(火) 午後1時30分～4時30分(神谷中)「三部会」、「全体会」、「小中一貫教育推進協議会」



サブファミリー防災・減災教育

(2) サブファミリー全体での活動

- ① 4月23日(土) 午前10時30分～11時20分「小中合同引き渡し訓練」各小・中学校会場

- ② 5月17日(火)午前8時30分～午後3時「田植え」(小5・中2)ファームインさぎ山
- ③ 6月4日(土)午前9時～11時30分「神谷中学校運動会」(北区立北運動場)
- ④ 6月21日(火)「学校ファミリーの日①」研究授業(稲田小学校)
- ⑤ 6月28日(火)「小中連携国語科研究授業(神谷小・神谷中)」(神谷中学校)
- ⑥ 9月7日(水)「小小連携道徳科研究授業(神谷小・稲田小)」(稲田小学校)
- ⑦ 9月16日(金)「小中連携算数科研究授業(神谷小・神谷中)」(神谷小学校)
- ⑧ 9月21日(水)「農業体験：稲刈り」(小5・中2)(ファームインさぎ山)
- ⑩ 「サブファミリー標語展」…「命」、「愛」、「人権」、「あいさつ」をテーマに児童・生徒全員から標語を募集。9月に最優秀作品12点を選び、ポスターを作成し、校内及び町会・自治会の掲示板にて展示
- ⑪ 10月15日(土)「少年の主張発表会」、「農業体験報告会」(神谷中学校)
- ⑫ 10月28日(金)「学校ファミリーの日②」
研究授業、研究指定校中間発表(神谷中学校)
- ⑬ 11月15日(火)「防災・減災教育」(稲田小学校)
神谷中1年、稲田小、神谷小4年参加
- ⑭ 11月22日(火)「小小連携理科研究授業」(神谷小)
- ⑮ 12月21日(水)「小中連携道徳科研究授業」(稲田小)
- ⑯ 1月31日(火)「北区学校ファミリーの日③」
研究授業(神谷小学校)
- ⑰ 2月14日(火)「小中連携道徳科研究授業」(神谷中学校)



サブファミリー農業体験

3. 成果と工夫した点

- (1) (仮称)北区立都の北学園カリキュラム検討委員会の三部会組織が、明確に確立された。年間を通して、それぞれの部会で検討する内容も具体化されている。その過程を北区教育委員会研究指定校中間発表会で披露する。
- (2) 年間を通して、学校間(小中連携、小小連携)の教科部会、学年部会を開催し、小中一貫教育カリキュラムの作成や授業研究を重ねてきた。
- (3) 「小中合同引き渡し訓練」は、前年度中に目的や運営方法を明確にしたため、小・中学校教職員が連携し、ねらいを絞った指導ができた。引き続き感染症対策を施し、保護者へのスムーズな引き渡しができた。

4. 課題と改善の方向性

- (1) 「サブファミリー防災・減災教育」や農業体験(田植え、稲刈り)を実施するにあたり、年度当初までに担当者同士が確認し、教職員全体に周知したうえで実施していくことが必要である。
- (2) (仮称)北区立都の北学園の開校を目前にして、教育カリキュラムの確立をさらに推進する。小中一貫教育推進協議会メンバーを中心に、教科指導や学校行事、生活指導関係等において、実際の指導体制を配慮した内容を構築する。そのためには、現状の改善を図り、サブファミリー校3校職員の一体感を、なお一層深め、強固なものにしていく。

浮間中サブファミリー（浮間中・浮間小・西浮間小）

1. 交流・連携の方向性

テーマ 「主体的に学ぶ子どもの育成 ～学力の定着・向上を図る授業改善～」

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を小中で実践することで、学力の定着・向上を図る。また、小・中学校9年間で一貫した学習規律や生活習慣等の確立を進める。

- (1) 授業研究（8分科会 小学校各学年＋特別支援学級+養護部会）
- (2) 合同行事（引渡訓練、地域清掃、特別支援学級交流会、卒業生のお話を聞く会）
- (3) 児童・生徒理解（中1ギャップ連絡会、QU調査の活用）

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- ・管理職、教務主任、生活指導主任、研究主任が研修内容や日程を調整し、情報共有することができた。
- ・サブファミリーの日に実施する授業研究では、サブファミリーのフォルダを活用し3校の教員による指導案検討会を、あらかじめリモートで実施することができた。
- ・引渡訓練は、3校合同の日を設定した。地域清掃は、3校の都合により別日の実施となった。
- ・中1ギャップ連絡会は、ファミリーの日に実施した。

(2) サブファミリー全体での活動

コロナ禍でも合同行事はすべて実施することができた。コロナ後には、ファミリーコンサート等さらに充実した合同行事を実施していきたい。

- ・学校ファミリーの日・・・6月15日（水）浮間小学校
9月28日（水）浮間中学校
1月25日（水）西浮間小学校

ファミリーフォルダやC4t hを活用して指導案検討会を行った。

- ・中1ギャップ連絡会・・・ファミリーの日（研修会后）
- ・小中一貫学力向上部会・・・夏季休業中に作業を行った。
少人数で小学校と中学校の教員が集まることができ、有意義な連絡会となった。
- ・地域清掃（PTA行事）・・・各校で計画・実施
毎年PTAとの合同行事としている。2年間は、各校で校内清掃等を実施していたが、今年度は、各校ごとに地域清掃を実施した。
- ・小学生見学会・・・11月15日（火）
浮間小学校と西浮間小学校の6年生が浮間中学校に集まり実施した。新校舎の見学は、中学生になる心構えを自覚させる良い機会となっている。
- ・ファミリーコンサート・・・2月（3校同時の土曜授業の午後）
3年前に新しく始めた合同行事である。浮間地区青少年委員会の協力を受け、多くの地域の方から好評をいただいた。令和2年度は、新校舎となった浮間中での実施を予定していたが、その後3年間中止となっている。

- ・その他に、出前授業や道徳授業地区公開講座への参加等も教員の交流の場として考えていた。

(3) 特別支援学級交流

今年度、教育総合相談センター主催による新入生・転入生を迎える会が2会場での分散開催となった。他の学校との交流も深まり、有意義な行事となった。

また、昨年度から実施している浮間小学校・浮間中学校2校による交流行事も恒例となってきた。卒業生の成長の様子が変わり、小中一貫教育に役立っている。

(4) 卒業生の話を聞く会

浮間小学校と西浮間小学校を卒業した浮間中学校の3年生が、母校の6年生に中学校生活を具体的に説明する会を実施した。小学校6年生の不安な気持ちを解消するため、中学3年生がきたコンを活用してスライドを作成し説明を行った。6年生にとっては、中1ギャップの解消につながり、小学校の先生方には卒業生の成長が見られ、楽しみにしている行事として定着してきた。

3. 成果と工夫した点

今年度のサブファミリーの活動は、3回とも授業公開を実施することができた。第2回のファミリーの日には、Q-U調査活用についての研修を行った。中学校で実施したQ-Uの表を小中合同で分析した。浮間地区の児童・生徒の様子をQ-Uを活用することにより分析し、小中一貫教育を実感することができた。

4. 課題と改善の方向性

4年前に、「道徳の授業研究」に舵を切り、2年間の研究を進めてきた。令和3年度は、研究をさらに深めるため、「教科」に焦点を当て、小中一貫教育の連続性・統一性を研究することができた。令和4年度も「教科」と「特別活動」で、小中一貫教育を目指した授業改善を図った。令和5年度も「主体的に学ぶ子どもの育成」に向けて、サブファミリーの研修をさらに深めていきたい。

そのための手立てとしてサブファミリー内で、以下のようなことが今後実現できると良い。

- ・小学校6年間で培ってきた授業規律や生活のルールなどを中学校側が引き継ぎ、義務教育後半の3年間で、保護者や地域・学校が目指す児童・生徒の育成をする。
- ・中1ギャップ連絡会を充実させ、入学前の聞き取りのみに頼らず、学級編成の構想や受け入れ準備を入念にする。
- ・持続可能な連携のために、小中双方の意思や考え方の共有を可能にするシステムを構築していく。
- ・年3回の対面の交流だけでなく、日頃の情報交換や共有事項をICTの活用を通して実施する。3校の教育活動が互いに分かるように、サブファミリーのフォルダを活用し、学習面や生活指導面、年間行事予定表、月行事予定表など、様々な案件の情報共有をする。

田端中サブファミリー（田端中・田端小・滝野川第四小）

1 交流・連携の方向性

- (1) 中学校区全体の教育力を高めるため、学校・家庭・地域の協力体制を確立し、豊かな心、健やかな体、確かな学力を育てる活動を推進し、児童・生徒の健全育成を図る。
- (2) 中1ギャップ解消のために、小学校で学んできた学習や活動を中学校でも継続・発展させ、小・中9年間の教育の接続・一貫を目指す。
- (3) 学校文化の異なる多様な人間関係を学び、対人関係調整力の向上や、自己実現を目指して広い視野やたくましい心を身に付けるように努める。
- (4) 年3回の「学校ファミリーの日」には、3校の全教員が授業を参観し合い、小・中9年間の一貫した教育を見通し、田端中サブファミリー校で目指す子ども像や各校の教育実践について意見交換や指導方法の改善を図るよう推進する。

2 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

①第1回連絡会（田端小学校） 令和4年5月6日（金）15：30～

- ・各校担当の確認
- ・田端中学校サブファミリーの事業計画の確認・検討

②第2回連絡会（滝野川第四小学校） 令和5年1月25日（水）16：00～

- ・令和5年度の各校行事予定の確認・調整
- ・令和5年度「学校ファミリーの日」の日程と内容確認
- ・分科会組織の確認・検討 ※学校ファミリーの日の授業公開時に限定する。

	分科会名
1	算数・数学、理科
2	外国語活動、外国語
3	実技・芸術 (図工・美術、音楽、技術、家庭)
4	体育・保健体育、養護
5	N I E 推進（国語、社会） 【担当：滝四小】
6	読書活動推進（国語） 【担当：田端小】
7	特別活動推進（道徳） 【担当：田端中】

【三校申し合わせ事項】

- 一 各分科会には、原則として年間を通して同じメンバーが参加する。
- 二 分科会の司会と記録は、担当校で行う。教員が不足する場合は、他校に手伝いを依頼する。
- 三 公開授業には、所属する分科会の授業に担当者を割り振り、必ず参観する。
- 四 分科会ごとに、参観した授業に対して視点を明確にした話し合いを行う。
- 五 5～7の分科会は、各教科の視点からも研究を推進する。

- ・研究テーマ「小中一貫教育を視野に入れて、自らステージを高めていく学びを探る」
- ・新規事業の方向性
 - ア 読書活動、N I E 教育活動における学びの成果を小学校5・6年～

中学校全学年を対象とした発表会・交流会実施。(きたコンを用いた発表)
イ いじめ防止活動の推進 児童会・生徒会のいじめ防止活動の取組の紹介、ファミリー校としてのスローガン決定等の交流を図る。

(2) サブファミリー全体での活動

- ①第1回「学校ファミリーの日」(会場：田端中学校) 令和4年6月15日(水)
・内容：全体会、分科会
- ②第2回「学校ファミリーの日」(会場：田端小学校) 令和4年9月21日(水)
・内容：全体会、分科会
- ③第3回「学校ファミリーの日」(会場：滝野川第四小学校) 令和5年1月25日(水)
・内容：分科会、全体会

3 成果と工夫した点

- (1) 読書活動推進事業として令和4年度にスタートした「たばたの100冊」は、児童・生徒が手に取れるよう図書室の環境整備が進んだ。また、読書記録を紙だけでなく、きたコン上で行えるようにした。今後、100冊の選書を進めていく中で、小中の交流活動を推進していく。
- (2) NIE教育活動推進事業として、各校の取り組みや成果について情報共有し、実際に他校の実践を導入する動きも出てきた。「新聞大好きプロジェクト」に参加、入賞者が輩出された点から、日常的に新聞を手にする機会が大切であることを再認識した。
- (3) 特別活動推進事業として、小学校の児童会と中学校の生徒会が連携して「あいさつ運動プロジェクト」を企画・提案・実施し、サブファミリー校全体で取り組めた。中学校ではボランティア生徒も参加し、交流の裾野を広げることができた。
- (4) 「つまずきゼロプラン」を通して、子どものつまずきや苦勞している点の分析を進めることができた。これにより小学校では指導の重点が、中学校では中1ギャップの防止、対策に役立っている。

4. 課題と改善の方向性

- (1) 小学校6年間の積み重ねが中学校での学習につながっていることをサブファミリー全教職員の共通認識として、授業の内容・質の更なる向上を図っていく。また、今後の授業公開で作成する指導案には「関わり合い」の視点を盛り込み、「協働的な学び」を意識した授業を構築していく。
- (2) より児童・生徒の実態に即した研究テーマに見直し、サブファミリー3校の教育実践力を高めることとする。

滝野川紅葉中サブファミリー（滝野川紅葉中・滝野川第二小・ 滝野川第三小・谷端小・滝野川もみじ小・たきさん幼）

1. 交流・連携の方向性

- (1) 5校1園で児童・生徒の発達段階における学習経験や学習特性についての理解を深め、実態を踏まえた学習改善の方策についての研究を深める。
- (2) 「主体的に学び、進んで表現する児童生徒の育成」を共通の授業研究テーマとし、教科ごとによる授業交流と情報交換等を行い、中1ギャップの解消と教員同士の連携を深め、授業改善の視点を共有化して授業実践に取り組む。
また、育てたい子ども像を
 - ・地域の一員として、進んで貢献しようとする子ども
 - ・自己肯定感をもち、自他のよさを認め合える子ども
 - ・基本的な生活習慣を身に付け、学習意欲のある子ども と設定した。
- (3) 「子どもたちがどのように学ぶか」という視点に立って、授業設計を深めることにより、一人一人のつまずきに対応したきめ細やかな指導の充実を目指す。
- (4) 伝統野菜の「滝野川ごぼう」の栽培や、標語の募集、滝野川地区の特色ある教育資源を活用するとともに、地域内の東京国際フランス学園との交流を通して国際理解教育を充実させ、地域に誇りをもつ活動や地域とかかわる活動を行う。

2 具体的な活動

- (1) 調整や話し合い
 - ・年度当初：5校1園の校園長・本年度の活動計画、年間指導計画の確認
 - ・5月12日：第1回運営委員会（中校長・各校副校園長・教務主任）・活動方針・実施計画、部会の組織、運営方法、構成員の確認等
 - ・随時：教務主任・生活指導主任・方針の共通理解、日程調整等
- (2) ファミリー全体での活動
 - ①授業研究・授業交流
授業交流は、国語科、社会科、算数科・数学科、理科、外国語活動・英語科、保健体育科・養護、専科（音楽科、図画工作科、美術科、技術・家庭科）の7分科会で、滝紅中スタンダードの実践を視点とした指導方法の工夫改善について研究を深めた。
 - ・第1回学校ファミリーの日（6月15日）は滝野川紅葉中学校にて授業研究
 - ・第2回学校ファミリーの日（9月28日）は滝野川第三小学校にて授業研究
 - ・第3回学校ファミリーの日（1月25日）は滝野川第二小学校にて授業研究各回とも授業を実際に参観し、その後、幼・小・中の教員で分科会ごとに協議を行い、SF各校の校長・副校長を講師に配し、指導・講評があった。
第2回・第3回は事前の指導案検討を長期休業中に実施した。
 - ②体験授業
 - ・1月12日・サブファミリーの小学6年生を対象に、新入生体験授業を実施。生徒会役員による中学校生活の紹介、中学校教員による授業体験を行った。

③国際理解教育（東京国際フランス学園—リセとの交流）

- ・滝野川紅葉中学校・双方に行き来し、フランス語の学習体験・書道体験などを行った。
- ・滝野川第二小学校・滝野川もみじ小学校・4年生がリセの児童とフェンシング体験。各校で歌も披露し交流を行った。
- ・たきさん幼稚園・創立50周年の園紹介を作成し、リセ校内に掲示。

④「滝野川ごぼう」等の栽培

- ・サブファミリー全校で滝野川ごぼうの栽培
- ・緑のボランティア等地域の方々と連携し、児童・生徒の活動を支援できる体制を作った。今年度は、江戸東京・伝統野菜研究会代表大竹道茂氏に各校で授業や講演を行っていただいた。また、瀧野川八幡神社にて滝野川ごぼう・滝野川にんじんのイメージキャラクター名の募集があり、「滝野川ごぼう」に対する、興味・関心を高めることができた。滝野川第二小学校では、昨年度から栽培する箱を改良し、多くの収穫を得た。滝野川紅葉中学校とたきさん幼稚園では、収穫の喜びと味わう楽しさの二つを得た。



⑤キンボール大会

- ・11月5日・サブファミリーの小中学校5校それぞれの保護者・教員でチームを組み、キンボール大会を実施した。リセは今回不参加。ここ数年コロナ禍で開催されておらず、初めて競技に触れる参加者もいる中、各校複数チームで参加し、盛り上がりを見せた。

3 成果と工夫した点

- (1) 授業研究を通して、発達段階における各教科の効果的な指導のあり方を探究した。授業の目的や目的達成のための手段の検討など多くの成果を収めた。
- (2) 4月に実施した北区基礎・基本調査の1学年国語、算数、理科、社会の結果を基に、「つまずきゼロプランシート」を作成し、小中学校で共有することで、学習のつまずきを確認し、そのための足場かけを検討・確認することができた。
- (3) 研究授業及び研究協議会は、開催方法を探りながらの開催であったが、分科会ごとに、小・中9年間（教科によっては幼稚園を含めて11年間）を見通した各教科における効果的な指導の在り方を探究することができた。

4 課題と改善の方向性

- (1) 今後も分科会主体の研究を続けるか、授業交流の新しい方法を考えていくか検討が必要である。
- (2) サブファミリーとして、地域の特色や特性を生かした小中一貫教育の実現に向けた研究授業や交流を一層充実させる必要がある。
- (3) 新学習指導要領に合わせて「主体的・対話的で深い学び」の視点から指導方法や評価方法を工夫改善して実施していくことが、今後の課題である。

飛鳥中サブファミリー（飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小）

1. 交流・連携の方向性

これまでに継続してきた学力向上、児童・生徒交流を2つの柱として、小中一貫教育の推進を充実する。

育てたい子ども像

- 1 意欲的に学習に取り組み、自ら学力を伸ばす子ども
- 2 自分の良さを知り、他者を思いやり協力し合う子ども
- 3 明るく元気に進んで運動する子ども
- 4 地域に生き、地域を愛し、地域を支える子ども



S F 分科会打合せ（滝野川小）

2. 具体的な活動

(1) 全体会および小中連携活動

- ① 5月 6日（金）運営委員会 飛鳥中学校 15時30分～
- ② 6月15日（水）公開授業、分科会、全体会 滝野川小学校 13時40分～
- ③ 7月 2日（土）小中連携引き渡し訓練
- ④ 8月23日（火）理科小中合同実技研修会 ⇒中止
- ⑤ 9月28日（水）公開授業・分科会、全体会 飛鳥中学校 13時30分～
- ⑥ 1月25日（水）小中連携TT授業、分科会、全体会 西ヶ原小学校 13時40分～



公開授業（飛鳥中）



新入生体験入学（飛鳥中）

(2) 分科会の具体的な取り組み

「学力向上」

①算数・数学科

- ・新入生体験入学における数学授業体験、見学。（10月）⇒中止
- ・中学3年生が小学6年生に、算数・数学の問題解決の授業を行う。（2月）⇒中止

②社会科及び、外国語活動・英語科

- ・新入生体験入学における社会科授業体験、外国語（英語）授業体験、見学。
（10月）⇒中止

③道徳科

- ・滝野川小学校の公開授業に3校の教員が参観。道徳科分科会協議会で意見交換。

（6月）

④小中連携「つまずきゼロプラン」会議（8月）⇒書面にて実施。

「児童・生徒交流」

①保健

飛鳥中の保健委員会の生徒が、滝野川小・西ヶ原小で保健「たばこの害」についての授業を行う。（12月 新入生体験入学の際に実施）

②書写・図工科・美術科・家庭科

3校で児童・生徒の作品を巡回し、校内に掲示して作品交流を行う。（12月～3月）

③運動会招待演奏

西ヶ原小運動会に飛鳥中の吹奏楽部が演奏・パフォーマンスを披露。（6月）⇒中止

④合唱交流・参加

飛鳥中(1年)・滝野川小(6年)・西ヶ原小(5、6年)が飛鳥中で合同合唱交流。

(11月)⇒中止

⑤部活動体験・交流

飛鳥中での新入生体験入学で、生徒会役員が部活動紹介含め学校紹介を実施。

(12月 新入生体験入学の際に実施)

小学校金管バンドが飛鳥中吹奏楽部練習に参加し、練習方法を学ぶ。（3月）⇒中止



中学校の教員が小学校の授業に入り T T 授業を実施（西ヶ原小）

3. 成果と工夫した点

(1) 小中連携によるつまずきゼロプランは3年ぶりに対面での協議会を行い、現中1の北区基礎・基本の定着度調査の結果を細かく分析し、各教科の課題や、現6年の学習習慣について協議することができた。各校の指導に活かし基礎学力の定着や学習習慣を定着させていく。

(2) 新入生体験入学会は、教科の授業体験、部活動体験については実施できなかったが、生徒会役員によるICT活用での部活動を含む学校紹介、保健委員会による喫煙防止教室は実施するなど工夫ができた。

(3) 今年度はSF3校の授業公開を対面で実施することができた。また、第3回目は中学校の教員が小学校の授業に入り、TT研究授業を実施することができた。

4. 課題と改善の方向性

(1) 小・中学校教員によるTT研究授業の工夫を検討していく。

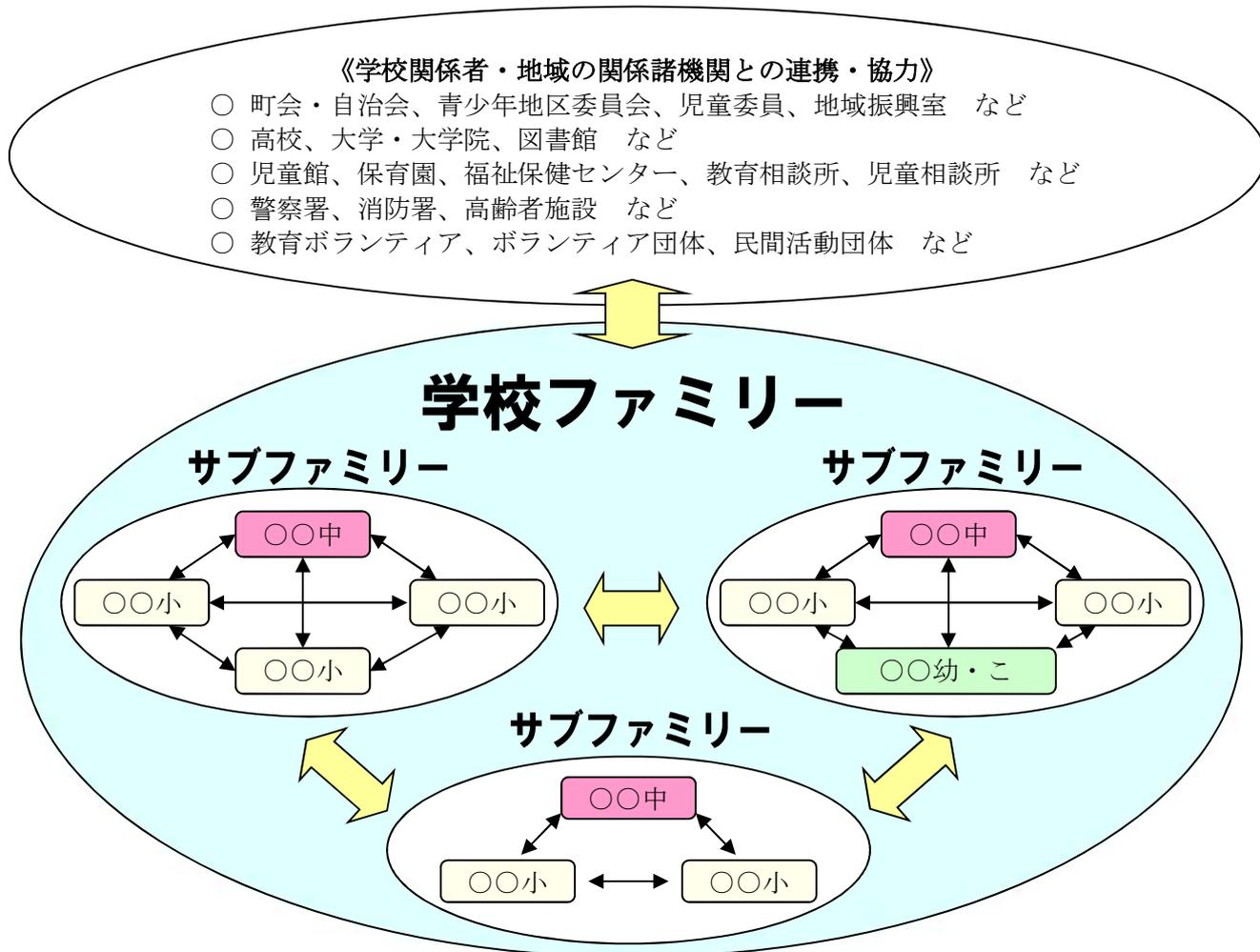
(3) 道徳授業地区公開講座は、保護者・地域に向けて3校独自に実施する。

(2) コロナ禍で中止してきた小中連携による各教科の予定を再検討していく。

北区学校ファミリー構想概要

1 北区学校ファミリーとは

北区学校ファミリーとは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園・こども園からなる近隣複数校のネットワークです。そして、1校だけではできないことを複数校が協力して実践し、質の高い教育を実現しようというものです。（下イメージ図参照）



「北区学校ファミリー構想」は、次のような状況を踏まえて平成15年6月に策定されました。

教育課題

- ・ 子どもたちの学習意欲や学力の低下への懸念、生活習慣の変化により直接体験・生活経験の減少、人とかかわる力が低下、体力の低下、中学生・高校生では読書時間の減少
- ・ 地域社会の連帯感の弱まり、就労状況の変化、核家族化により、子育て自体に困難さを生じている

改善策

- ・ 地域の学校として同校種間の連携や異校種間の連携・接続、地域の教育資源の活用方法などに工夫・改善を加えた、北区の新しい教育を推進していく

2 北区学校ファミリーのねらい

①自己革新し続ける新しい学校づくりをめざします

各学校が「開かれた」存在へと変化し、さまざまな外部機関や他校と「結ぶ」柔軟性をもち、教職員、保護者、地域住民も「ともに学び合う」という体制をつくります。そして、常に新しい教育課題に挑戦し、自己革新し続ける新しい学校づくりを目指します。

②子どもたちの教育環境を整備します

学校の基盤となる「地域」の拡大を図り、その利点を生かして子どもたちの学びをより豊かなものとします。

③地域の教育・子育てプログラム全体の改善・充実を図ります

学校間のネットワークだけでなく、学校と幼稚園、こども園、保育園、児童館などとの連携や学校と家庭・地域社会との幅広い連携を生み出し、広域的な地域エリアのなかに、教育・子育てのネットワークを築き上げます。

3 学校間連携による5つの効果

①教育課程の面

- ・ 共同のカリキュラム開発、多様な学習活動
- ・ 地域情報の共有、地域に根ざしたプログラム開発

②学校運営の面

- ・ 学校間の組織的な連携
- ・ 指導体制の充実（小規模化の中で学校の教育力の維持）

③子どもの学びの面

- ・ 基礎的、基本的な事項の確実な定着
- ・ 就学前教育の充実による小学校入学に対する不安の解消
- ・ 小中の交流による相互理解
- ・ 小学校高学年の中学校進学に対する不安の解消

④教員の資質向上の面

- ・ 子どもや地域の実態に応じた教員研修の実施
- ・ 授業交流や合同研修会による異校種の学習内容、指導法についての共通理解
- ・ 小中9年間を意識した的確な子どもへの援助・指導

⑤健全育成の面

- ・ 広い地域での見取り、情報収集力が高まり、関係機関との連携による質の高い対応
- ・ 保護者や地域との信頼関係の深まり

4 具体的活動

学校ファミリーによる学校間連携の内容は次の8項目になります。

- ①情報交換
- ②授業交流（幼稚園、こども園、小学校、中学校）
- ③教員研修の合同実施
- ④共同の教育課程（カリキュラム）の開発
- ⑤学校運営面での連携・協力
- ⑥学校行事での交流
- ⑦関係諸機関、地域の人との交流をもとにした教育活動の推進
- ⑧その他の連携・交流

各地域における取組みは、地域の課題などに応じてこれらのいくつかを選択するかたちになります。

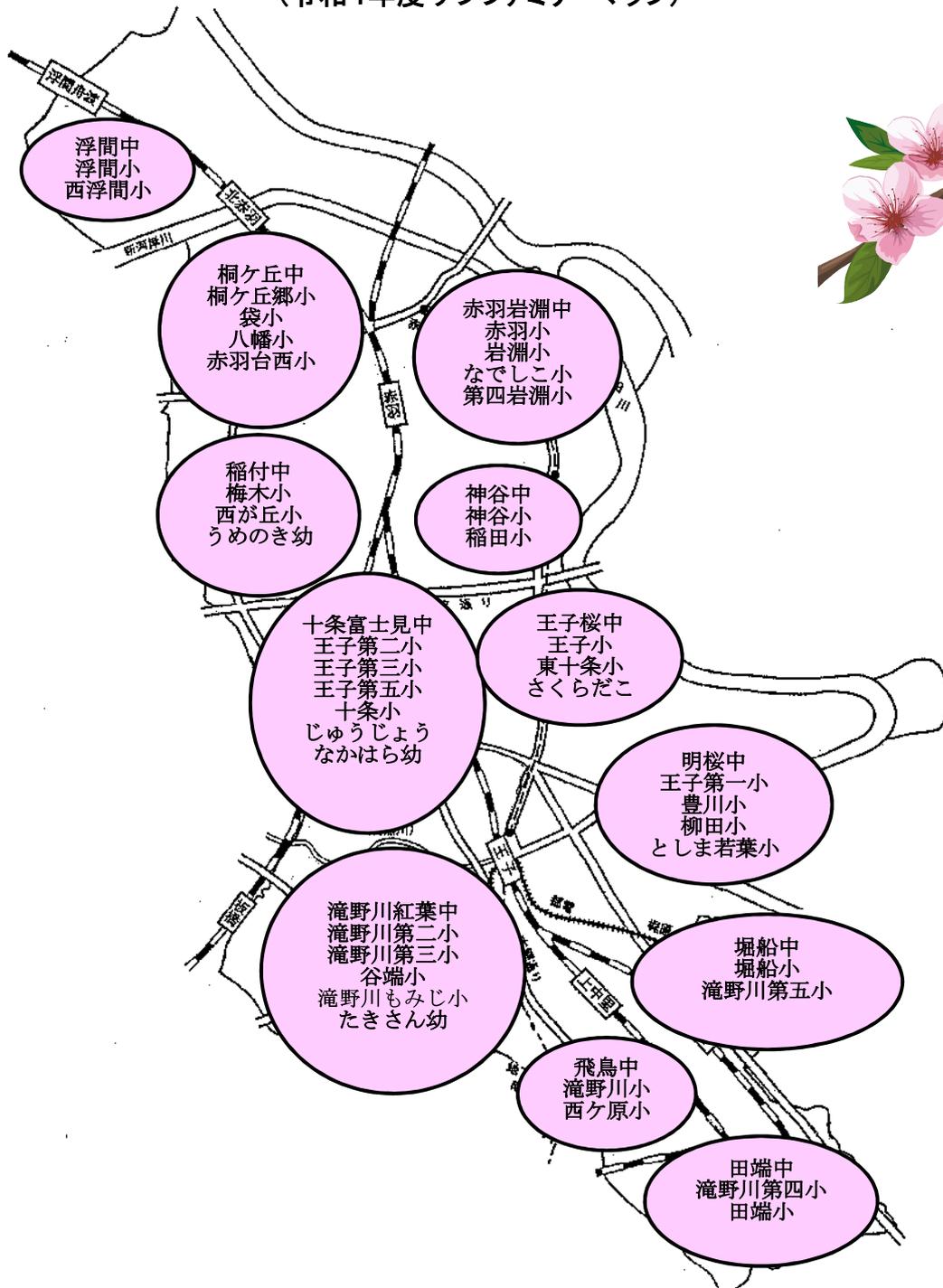
「北区学校ファミリーの日」について

北区独自の教育システムである北区学校ファミリーについての理解を深め、啓発を図るため、「北区学校ファミリーの日」を定め、各サブファミリーにおいて研究授業、授業交流、交流事業など、北区学校ファミリー事業を推進し、質の高い教育を目指します。

5 エリアの設定

学校ファミリーでは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園からなる組み合わせを「サブファミリー」と呼びます。

(令和4年度サブファミリーマップ)



6 今後の目標

学校ファミリーのねらいは、単に「学校改革」にとどまらず、「地域の再生・変革」にまでつながることが重要です。そのために、学校をより開かれた存在とすること、教育ボランティア導入など地域との連携の望ましい姿を研究して子どもの学びに生かすことを目標とします。

令和4年度北区学校ファミリー事業報告書

令和5年3月発行

発行 北区教育委員会事務局 教育振興部 教育政策課

東京都北区滝野川2-52-10

電話 03-3908-9279

FAX 03-3908-1265

刊行物登録番号

4-1-160